

平成24年度（2012年度）

# 小学校英語活動に関する研究

小学校における外国語活動は、完全実施から2年目に入った。今年度の部会は、「英語ノート」から移行した「Hi, friends!」の活用を基本にしながら、児童の興味・関心にそった内容にするための視点や工夫のしかたなどについてのより具体的で実践的な手法を研究した。

また小学校外国語活動の目標・評価の規準の確認をしたのち、それらにのっとった指導案を部員で作成、研究授業を実施した。さらに毎年課題である小中連携についても、中学校英語部会との研究授業公開という具体的な取り組みを実施した。

## <研究員>

新村 寿恵	箕面市立箕面小学校
宮本 泰治	箕面市立萱野小学校
杉本 靖代	箕面市立北小学校
平松 真咲	箕面市立南小学校
寺内 万里子	箕面市立南小学校
福本 紀子	箕面市立南小学校
小林 瑞枝	箕面市立萱野北小学校
佐々木久美子	箕面市立東小学校
松井 美和	箕面市立東小学校
足立 稔美	箕面市立西南小学校
安達 隆史	箕面市立萱野東小学校
大森 奈都美	箕面市立中小学校
川端 有美	箕面市立中小学校
黒杭 慎平	箕面市立豊川北小学校
細田 賀代子	箕面市立西小学校
塩田 満里子	箕面市立西小学校
前澤 鮎子	箕面市立豊川南小学校
山本 歩美	箕面市立止々呂美小学校
田中 麻記	箕面市立彩都の丘小学校

## <スーパーバイザー>

関西大学 池田 真生子准教授

## はじめに

小学校での外国語活動（英語活動を含む）に関する研究は、平成13年度（2001年度）に「小学校における英語学習のあり方に関する研究」部会から始まった。「総合的な学習の時間」の国際理解教育の一環として導入されたところから、準備を重ねる形で外国語活動の必修化に至り、現在では学級担任と外国語指導員、指導助手とのティームティーチングが定着している。その中で「Hi, friends!」を効果的に活用するための研究をすすめていく必要がある。

### I 研究テーマの設定について

新指導要領による、昨年度からの小学校における外国語活動の完全実施をうけて、以下を研究のテーマとした。

「英語ノート」から移行した「Hi, friends!」の活用を基本にしながら、児童の興味・関心にそった内容にするための視点や工夫の仕方などについて、より具体的で実践的な手法を研究する。

### II 研究仮説の設定について

「Hi, friends!」の活用について、1単元を研究部員共同で授業案を作成することで具体的に実践的な手法が研究できる。

### III 検証経過

- |        |   |
|--------|---|
| 4月25日  | 第1回研究部会「今年度の研究の方向性について」   |
| 5月18日  | 第2回研究部会「『小学校外国語活動』のありかたについて」<br>(講師) 池田 真生子   |
| 6月13日  | 第3回研究部会「各校の取組を交流」   |
| 8月23日  | 豊能地区教育課程研究協議会<br>小学校外国語活動(第4回研究部会)<br>(発表者) 萱野東小学校 安達 隆史<br>「先生、アイ ウォントゥ プレイ サッカー！」 |
| 9月10日  | 第5回研究部会「指導案作り①」<br>(指導助言) 池田 真生子  |
| 10月10日 | 第6回研究部会「指導案作り②」   |
| 11月30日 | 第7回研究部会 研究公開授業(30日)<br>(授業者) 箕面小学校 新村 寿恵<br>ALT デビアシ・クリスチャン<br>(指導助言) 池田 真生子        |

2月18日

第8回研究部会 「1年の振り返りおよび来年度に向けて」  
(指導助言) 池田 真生子

#### IV 研究内容

##### 【スーパーバイザー紹介】

- 関西大学准教授 池田 真生子

##### 【各学校の英語授業の様子的交流】

- 5, 6年担当で学年ごとにALTとの打合せをしている。  
3クラス×2学年のため、6時間授業をお願いしなければならず、また昼休みや放課後に打ち合わせをするのでALTには負担をかけている。
- 校内の「外国語部会」で情報を共有することができている。
- 5・6年担当が中心で、他学年所属では情報共有ができていないのが現状である。
- 毎回のALTとの授業ではコミュニケーション活動ができる。

##### 【今年度研究の方向性について】

- 研究員が共同で授業案を作成して、研究授業を実施する。
- 可能な限り小中の連携を行う。
- 学級担任が、それぞれのクラスの「Hi, friends!」に応用できるように各校の取組を共有する。

##### 【その他】

- 年度当初のALTとの打ち合わせ状況について
  - \* 基本は5・6年担任や学年が指導案を作り、ALTと相談の上、授業を組み立てていくことを確認しあった。
  - \* 英語活動ではあくまでも学級担任がメインであること、少なくとも最初と最後のあいさつは学級担任がリードすることをALTと確認しあった。
- Hi, friends!の配布について
  - \* 5年でHi, friends! 1、6年でHi, friends! 2を一斉配布をした。
  - ほとんどの小学校では各教室保管とした。

小学校英語活動に関する5月研究部会（報告）

#### 小学校外国語活動について（池田准教授講演より）

学級担任が授業をする(専科ではない)

担任だからできること

1 子どもたちと距離が近い

- 2 子どもたちの実態に合った授業ができる
- 3 子どもたちの規律をコントロールできる
- 4 英語を使う日本人としてのモデルになることができる

A L Tだからできること

- 1 英語の知識がある
- 2 自分の国の文化を伝えることができる

箕面市はA L Tが、ほぼ毎回活動に入ってT Tをしているが全国的には少ないといえる。担任ひとりでもできるように、I C T教材やC D、指導書があるので活用してほしい。

- I C Tを効果的に使用する。
- 小学校では教えすぎない。文法事項を徹底させる時間ではない。
- 英語に興味を持ち、英語を聞いたり話す活動に積極的に取り組む。
- 振り返りカードを効果的に使う。

評価規準について

学習指導要領

- ①日本と外国の両方の言語・文化について体験的に理解を深める。
- ②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。(コミュニケーション能力の素地)
- ③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。  
**特に言語や文化について知ることを大切にする。**

池田准教授レジメより

タイトル 小学校外国語活動はどうあるべきか

項目

1 外国語活動とは

1) 外国語活動の目標 (学習指導要領)

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

特に言語や文化を大切に！

既知のものでも新たな発見をもたらす話題等を扱う

外国人の表現や身振りの中から、文化の違いに気付かせる

## 2 学級担任の役割、ティーム・ティーチング

### 1) ティーム・ティーチングをする理由

- ・ 担任だからできること
- ・ ALT/JTE だからこそできること

### 2) 実際の役割分担は

	担任	ALT/JTE
授業の準備	指導案作成 教材の準備	指導案作成の補助 教材の準備
授業の実施	活動例のデモ 活動の説明 机間巡視 英語を使う日本人としてのモデル	発話モデル 机間巡視(英語サポート) 英語でのコミュニケーション
児童の評価	3 観点についての評言	評価の補助

### ※ 英語で授業？

- a) モデルを示す
- b) 指示を出す
- c) フィードバックを与える

## 3 『Hi, friends!』について

- 特徴：
- 1) 各レッスンの構成は4ページ/ 6ページ
  - 2) 各レッスンの最終活動は、インタビュー(ペア)活動
  - 3) 文字は補助

## 4 小中連携

- 1) お互いを知る
- 2) 目的の共有と分担
- 3) 内容の連携

小学校で学んだことを中学校で活かすためにも

小学校では教えすぎない

(同じ中学校区の) 小学校同士の連携

## 参考文献

- 大津由紀雄、窪藎晴夫 (2008) 『ことばの力を育む』東京:慶應義塾大学出版会
- 岡 秀夫、金森 強 (2007). 『小学校英語教育の進め方 ―「ことばの教育」として―』東京:成美堂
- 河田嘉春 (2007). ALT との連携・知っておきたいポイント 影浦攻、他(編)『小学校英語セミナーNo. 23 「必修」に担任としてどう取り組むか』東京:明治図書出版 pp.26-29.
- 金森強 (編著) 『小学校の英語教育―指導者に求められる理論と実践』東京:教育出版
- 菅 正隆、高橋一幸、田尻悟郎、中島洋一、松永淳子 (2009). 新学習指導要領は英語の授業をどう変えるのか 『英語教育』 Vo. 58, No. 2, pp. 10-19.
- 久埜百合 (2008). 「小学校英語 中学への英語学習基礎のために」小寺茂明、吉田晴世(編著)『スペシャリストによる英語教育の理論と応用』東京:松柏社 pp. 191-206.
- 竹内 理 2006. 今こそ学級担任が主導する時 『小学校英語セミナー』20号 pp. 6-7. 明治図書
- 竹内 理、稲岡章代、柏木賀津子、兼重 昇 (2009). 座談会:小中連携を考える *Teaching English Now* 15号 pp.2-11. 東京:三省堂
- 中島和子 2004. 小学校英語で伸ばすべき能力は何か 『英語教育』5月号 pp. 24-26.
- バトラ―後藤裕子 (2005). 『日本の小学校英語を考える』東京:三省堂
- 文部科学省 (2008). 新学習指導要領(平成 20 年 3 月告示 平成 23 年 4 月実施分)[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/gai.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/gai.htm)
- 吉田新一郎 (2006). 『「学び」で組織は成長する』東京:光文社
- Asher, J. 1977. *Learning another language through actions*. Los Gatos, California: Sly Oak Publications.
- Dörnyei, Z. & Murphey, T. (2003). *Group dynamics in the language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.

## 小学校英語活動に関する6月研究部会（報告）

### 各校の実践報告（6校）

萱野東小学校 豊能地区教育課程研究協議会 小学校外国語活動部会発表

「先生、アイ、ウォントゥ プレイ サッカー！」（昨年度の研究授業の発表）

日時 平成23年（2011年）11月14日（月） 5限目（13:40～14:25）  
場所 箕面市立萱野東小学校 多目的室  
学年・組 6年3組 32名  
指導者 安達 隆史 アディソン・マーク  
単元名 Lesson7 『What time do you get up?』  
単元目標

- ・世界には時差があることに興味を持つ。
- ・積極的に自分の1日を紹介したり、友だちの1日を聞き取ったりしようとする。
- ・自分の『理想の1日』の生活を紹介する。

#### 児童観

本学級の児童は、明るく素直である。教師からの働きかけに対して素直に行動することができる。しかし、自ら考え行動することが苦手で、分からないことや自信がないことには消極的になってしまう。また、間違ふことや友だちと違うことを気にするあまり、自分自身の考えを表現することに躊躇する子が多い。そのような児童の様子から、人と違うことを気にせず自分の考えに自信を持ち表現できることが大切であると考え、グループでの活動を多く取り入れてきた。他の教科でも、隣の児童と考えを交流する“ペア対話”や、班で交流する“グループ対話”、友だちの意見に付け足しや修正を加えてまとめる“3組の考え”など行ってきた。また、間違っていることを否定せずに、考えの中から良かった点を見つける“肯定的評価”を意識してきた。これらの取り組みの結果、「間違っているでも誰かがフォローしてくれる」「自分の考えに自信がなかったけどグループで交流した考えだから発表できる」と前向きに授業に取り組む子が増えてきている。

# 単元計画

Lesson7	言語材料・語彙	第一時	第二時	第三時	第四時（本時）
自分の一日を紹介しよう	〔言語材料〕	〔目標〕 世界の国々の時差を知るとともに、時刻の言い方を知る	〔目標〕 さまざまな動作の言い方を知る	〔目標〕 ALTの1日の生活の話の聞き、理解する。 自分の生活について紹介する。	〔目標〕 自分で考えた「理想の1日」を紹介する
	〔語彙〕 1～60 時刻 動作	〔内容〕 ①挨拶 ②Let's Play 1～60の復習 ③時刻の言い方を知る ④時差について知る ⑤振り返り	〔内容〕 ①挨拶 ②時間と数の復習 ③p47動作の言い方を知る ④Let's Chant ⑤Let's Play ビンゴゲーム ⑥Let's Listen (何時何分) ⑦振り返り	〔内容〕 ①挨拶 ②時間と動作の復習 ③『マーク先生の1日』（時間軸に記入） ④『自分の1日』を記入 Gで紹介→代表が発表 ⑤時間・動作ゲーム ⑥振り返り	〔内容〕 ①挨拶 ②『マーク青年の1日』 時間と動作の復習 ③『理想の1日』を考える Gで発表 ④クイズ 「誰の1日でしょう」 ⑤振り返り
通知表観点 (評価基準)		主な判断材料			
		第一時	第二時	第三時	第四時
日本と外国の両方の言語・文化について知り、理解しようとする。		時計の読み方にふれ、世界の国々の時差を時計盤で表現しようとする		ALTの1日の生活を聞いてさまざまな文化の違いを知ろうとする。	ALTの1日の生活を聞いてさまざまな文化の違いを知ろうとする。
相手が話すことをよく聞いて理解しようとしたり、自分の考				ALTの1日の生活を聞き、想像し理解しようとする。	自分の『理想の1日』を相手に伝えようとする。



えを相手に伝わるように話したりする。				友だちの『理想の1日』を聞いて理解を深めようとする。
英語に興味を持ち、英語を聞いたり話したりする活動に積極的に取り組む。		教科書に載っている動作だけでなく興味がある動作を知ろうとする。	『自分の1日』をジェスチャーなどを使って伝えようとする。	自分の『理想の1日』をジェスチャーなどを使って伝えようとする。

## 指導観

5年生から始まった英語であるが、大半の児童が初めての出会いであった。(本学級では、英語教室に通っている児童は数人、帰国子女は一人)。「英語は分からない」「英語は難しい」という先入観から苦手意識が強く消極的になってしまい、声が小さかったり、手が挙がらなかったりする様子が見られた。そのような現状から、ゲームやクイズなどの活動を通して、楽しみながら英語に触れる授業づくりを心掛けてきた。また、ALTの発音を聞くだけでなく、全ての児童が必ず1回は発音できるような活動を取り入れてきた。

本単元は、日常生活の中の時間や動作の表現について知ることがねらいである。前時では、時間や動作の表現を使って、学校生活を中心とした“自分の1日”を紹介した。本時では、児童がより興味を持って考えられるよう“理想の1日”を紹介しあう。「もし1日だけ誰にも邪魔されず自分の好きなように過ごせるとしたら」という児童に関心の高い設定の中、表現したいことを友だちやALT、担任と相談しまとめる。ここでは、英語で書くことがねらいではなく、英語で相手に伝えることに重点を置く。その後、クイズ“誰の1日でしょう”を行う。自分の生活を紹介したり、友だちの発表を聞いて、自分の生活と比べたりすることで、違いを認め合ったり友だちの新たな面に気づいたりして、互いの理解を深めることにもつなげていきたい。

また、ALTの生活(「マーク先生の1日」と「マーク青年の1日」)を聞くことで、外国の文化を知り、興味を持たせたい。

(教材資料)

## 自分の一日を紹介しよう

組 名前

I get up	at	:		起きる
I go to school	at	:		学校に行く
I eat school lunch	at	:		給食を食べる
I go home	at	:		家に帰る
	at	:		
	at	:		
I take a bath	at	:		お風呂に入る
I go to bed	at	:		寝る

## 理想の1日を紹介しよう

組 名前

I get up	at	:	.	〇時に起きる。
	at	:	.	
	at	:	.	
	at	:	.	
	at	:	.	
	at	:	.	
	at	:	.	
I go to bed	at	:	.	〇時に寝る。

## クイズ大会 “誰の1日でしょう”

1班		5班	
2班		6班	
3班		7班	

4班		8班	
----	--	----	--

英語：ふり返しカード 月 日( )

組 名前

### <今日のめあて>

- ・マーク先生の1日を聞いて、動作と時間の表現を知ろう。
- ・自分の希望の1日の生活を相手にわかりやすく紹介しよう。

### <今日の授業のふり返し>

よくできた…◎      できた…○      もうすこしがんばろう…△

①先生の話をしっかり聞くことができた。	
②先生の話す言葉をくり返し言うことができた。	
③希望の一日を言うことができた。	
④動作や時間の表現が分かった。	

### <発見や感想>

外国語活動指導案

2 - Lesson2

When is your birthday?

とどろみの森学園 山本歩美

- 単元目標
- ・積極的に誕生日を尋ねたり、誕生日を答えたりしようとする。
  - ・英語での月の言い方や、誕生日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
  - ・世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付く。

- 単元評価規準
- ・進んで誕生日を尋ねたり答えたりしている。
  - ・月の言い方を聞いたり言ったりしている。
  - ・誕生日を尋ねたり答えたりしている。
  - ・時期や季節によって世界には様々な祭りや行事があることに気付いている。

- 本時の目標
- ・誕生日の尋ね方や答え方に慣れ親しむ。
  - ・世界と日本の祭りや行事に興味をもち、時期や季節の違いに気付く。

評価規準 ・誕生日を尋ねたり答えたりしている。(言語や文化) <行動観察>  
 ・時期や季節によって世界には様々な祭りや行事があることに気付いている。(慣れ親しむ)

<

行動観察>

本時の展開 (2/4時間)

児童の活動	指導者の活動	準備物
○挨拶をする。	・全体に挨拶をする。(Hello, everyone.) ・個別に挨拶をする。(How are you?)	
○キーワードゲームをする。 ・指導者が言う月を繰り返して言う。  ・隣の友だちとペアになってゲームをする。	・月のカードをホワイトボードに貼り、月の言い方を使ってキーワードゲームをすることを告げる。	教師用 月カード
○Let's Lesson 1 P6,7 ・世界の行事について、行事名や行われる月を予想する。 ・予想を確認するために、音声教材を聞き月・行事・国旗の絵を線で結ぶ。	・紙面の行事が何であるか、またそれらが何月に行われるかを予想させる。 ・どんな行事が確認した上で、音声教材を聞かせ、月、行事、国旗の絵を線で結ばせる。	デジタル教材
○誕生日を言ってみよう。尋ねてみよう。 ・指導者の後に繰り返して尋ね方や答え方を言う。	・When is your birthday? / It's ~. の言い方を一斉に繰り返して言わせる。 ・自分の誕生月を当てはめて言うようにさせる。 ・慣れてきたら、T:質問 C:答え の形式で言わせる。	
○Let's Lesson 2 P8 ・音声教材を聞いて、登場人物の誕生日を聞き取る。線で結ぶ。	・音声教材を聞かせ、答えを確かめさせる。	デジタル教材

<p>○Activity ボンゲームをする。</p> <p>・一つずつおはじき (Bomb) を持つ。英語で誕生日を尋ねあう。じゃんけんをして勝ったらおはじきを負けた人に渡す。(5分間)</p>	<p>・じゃんけんの言い方を伝える。</p> <p>・誕生日の尋ね方と答え方をもう1度確認する。</p>	<p>おはじき (人数分)</p>
---	--	-------------------

南小学校

### 5年 英語活動指導案

南小学校 平松・トーマス

『Hi, friends!』 Lesson3 「How many?」

- 本時のねらい
- 積極的に数を数えようとする。
  - 1～20の数の言い方に慣れ親しむ。

学習活動	指導上の留意点	その他
1. あいさつ	T→C、C→T、C→Cの順であいさつしていく。	
2. ABCソング		
3. 感情や様子を表す言葉の復習	Happy, hungry, tiredなどの言葉を、電子黒板にうつるイラストを見ながら順番に言わせる。	覚えていない児童にはヒントを出す。
4. 1～20の数字の言い方を知る	電子黒板にうつる数字やサイコロの目を見ながら、数字の言い方を学ぶ。	
5. ビンゴゲーム	20までの数字から16こを選んでビンゴをする。	
6. キーワードゲーム	ペアになってゲームをし、数字の言い方に親しむ。	必ず数字を言ってから消しゴムをとるように指導する。
7. あいさつ		

トピックス Greeting 1 grades □

本時の目標 ・英語であいさつをしよう。  
 ・ゲームを通して、慣れ親しむ。

2012/6/15

過程	児童	活動 ○HRT ・●JET	留意点
	児童	○HRT ・●JET	準備物
1 Greeting	“Hello”とあいさつする Hi! Hello. Hi! Hello. How are you ? I’m(Fine, good ,great happy). And you? Nice to meet you. (too) 歌をうたう.Hello song	○ Hi! Hello, Miss ( ). ●Hi! Hello. ○● I’m ( ). ● Hello. Nice to meet you. (too) ● Again(お互い握手をする.)  フラッシュカード  ○ジェスチャーでしめす。	元気よくあいさつ ができるように励ま す。  フラッシュカード用 意  電子ボードにて
2 Activities□ お天気	It’s_____. (sunny/ rainy /cloudy) What day is it? It’s ( day). Number	●How ‘s the weather today? フラッシュカード(お天気) 曜日 数字1～10 10ステップ song	各フラッシュカード 大きな声ではつき り発音させる。  電子ボード
3 Activities□	A :Hello ! Hi! I’m ( なまえ ). Nice to meet you. B: I’m ( なまえ ). Nice to meet you too. Paper/ Scissors/ Rock	あいさつ会話:名刺交換ゲーム ジャンケンしてかったら、カードもらう (なくなったらもとにもどる。)  言い方( Paper/ Scissors/ Rock 1/2/3)	一人5枚カード 時間2分 カード用意 しっかり聞き取れ ているか支援する 大きな声で発音さ せる。
4 Activities□	Game Digital game.	数字かるた game	カード用意 大きな声で発音さ せる。
5 Fare well	Good—bye song を歌う That’s all for today. Good —bye ( ) See you.	●いっしょに歌う。“グッバイソング” 今日は、これでおわりです。 さよなら ●、振り返りをさせる。	元気よくあいさつ させる。

トピックス Greeting 2 grades □

本時の目標 ・英語であいさつをしよう。

2012/6/ 22

・ ゲームを通して、慣れ親しむ。

	過程	活動		留意点 準備物
		児童	○HRT ●JET	
1	Greeting	“Hello”とあいさつする Hi! Hello. Hi! Hello. How are you ? I'm(Fine, good ,great happy). And you? Nice to meet you. (too) 歌をうたう。	○ Hi! Hello, Miss ( ) ●Hi! Hello. ○● I'm ( ). ● Hello. Nice to meet you. (too) ● フラッシュカード  ○ジェスチャーでしめす。 ○●Stand up. ○●Sit down. ○●Be quiet. ○●Listen ●Look.	元気よくあいさつ ができるように励ま す。  フラッシュカード用 意  CDデッキ
2	Activities□			各フラッシュカード 大きな声ではっきり 発音させる。
3	Activities□	It's _____. (sunny/ rainy /cloudy) .It's ( day). Number	●How 's the weather today? フラッシュカード(お天気) What day is it ? (曜日) 数字 1 ~10	
4	Activities□	Game A:Hello ! My name is ( ). Nice to meet you. B:My name is ( ). Nice to meet you. (too) Paper/ Scissors/ Rock	名刺交換ゲーム あいさつ ジャンケンしてかったら、カードもらう (なくなったらもとにもどる。) 言い方( Paper/ Scissors/ Rock 1/2/3)	一人 3 枚カード 時間 2 分 カード用意 しっかり聞き取れ ているか支援する 大きな声で発音さ せる。
5	Fare well	Good—bye song を歌う That's all for today. Good —bye (せいご) See you.	○キーワードゲーム(お天気)  ●いっしょに歌う。“グッバイソング” 今日、これでおわりです。 さよなら ●、振り返りをさせる。	元気よくあいさつ させる。

# 東小学校

1-Lesson 3 How many? 3/4 時間		
目標 1～20 の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。		
準備 教師用絵カード (鉛筆・チャイツ用)、デジタル教材、(振り返りカード)		
児童の活動	指導者の活動	準備物
・挨拶をする。	Short Interview	
【Let's Chant】 p. 12 ・絵カードを見ながら全員で言う。 ・ボールや動物を別のものに替えたり、数を別の数に替えたりして言う。	・音声教材を聞かせ、教師用絵カードを見せながら一緒に言う。 ・児童の実態に応じて、ボールや動物を別のものに替えたり、数を別の数に替えたりする	教師用絵カード (チャイツ用) デジタル教材
○キーンナンバーゲームをする。 (指導編H, friends! 1 p. 29 参照) ・指導者が言う数を繰り返して言う。 ・慣れたら、指導者にHow many pencils? と尋ね、指導者が答える～pencils. の表現を繰り返して言う。	・キーンナンバーゲームをすることを告げる。 ・キーンナンバーを児童に決めさせ、数を言う。 ・慣れてきたら、児童にHow many pencils? と尋ねさせ、指導者が教師用絵カードを示しながら～ pencils. の表現で答える。※評価①	教師用絵カード (鉛筆)
【Activity 1】 p. 12 ・誌面の絵を1分間見て閉じる。 ・絵にあった果物や動物について、指導者の質問に対して数を答える。 ・答えを確かめるために、再度絵を見て数を数える。	・活動の内容を説明する前に、児童にp.12の絵をじっくり見させた後、絵を隠させHow many ～? と尋ねる。 ・児童が数を答えた後に、絵を見させて一緒に数を数える。	
	・次時にも同じ絵を使ったクイズをするので、全てを尋ねずに4、5種類程度を	

	挨拶。	
【Activity 2】 p. 13 ・自分が持つりんごの数を決めて、誌面のかごのりんごに色をぬる。 ・冊子を持ち、How many apples? Twelve (apples). などとりんごの数を尋ね合いながら、自分と同じ数のりんごを持った友達を探す。 ・誌面の表に同じ数の友達の名前を書く。	・1～20の中で好きな数のりんごに色をぬらせる。 ・自分と同じ数のりんごを持った友達を見つけたら、誌面の表に名前を書くように告げる。 ・最後に、How many friends? と尋ね、見つけた友達の数を尋ねて答えさせる。※評価②	
・本時の活動をふり返る。振り返りカードに記入する。 ・挨拶をする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。 ・挨拶をする。	振り返りカード

### 評価規準

① 1～20 の数や数を尋ねる表現を聞いたり、言ったりしている。【慣】<行動観察・振り返りカード点検>

② 自ら相手を見つけて数を尋ねたり、答えたりしている。【コ】<行動観察・振り返りカード点検>



外国語（英語）活動 学習指導案

(1) 日時：平成24年(2012年)6月 日( ) 2限(9:50~10:40)

(2) 学年・組：5年 組(男子 名、女子 名)

(3) 単元：Lesson 3

(4) 単元目標：  
積極的に数を数えたり、尋ねたりしようとする。  
1~20の数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ  
言語には、それぞれの特色があることを知る。

(5) 単元計画

1時 本時	1~10の英語表現に親しむ 1~10の英語表現を使った集団遊び いくつかの言葉の1, 2, 3表現の類似点に気付く 活動を通じたお互いへの気付き
2時	11~20の英語表現に親しむ 11~20の英語表現を使った集団遊び 絵を使って、数を尋ねたり答えたりするコミュニケーション活動 活動を通じたお互いへの気付き
3時	1~20の英語表現に親しむ 1~20の英語表現を使った集団遊び 1~20を使ったインタビュー活動 活動を通じたお互いへの気付き

(6) 本時の目標：  
リズムにあわせて体を動かし、1~10の英語表現に親しませる。  
1~10の英語表現に親しませる。  
英語、フランス語、日本語、スペイン語、韓国語、中国語による1~10の表現を聞いて、類似点に気がつく。  
クラスメイトの良いところに気付くことができる。

(7) 本時の評価規準：  
Ten Steps を聞いて、リズムにあわせて体を動かそうとしていたか。  
英語で積極的にものを数えようとしていたか。  
各国語での数字表現の類似点をさがそうとしていたか。  
クラスメイトの良いところに気付くことができたか。  
 ※授業観察や振り返りカードから評価データとする。

(8) 本時の展開

ながれ	児童の活動	HRTの動き	ALTの動き	留意点・評価
あいさつ (5分) 【復習】	HRT&ALT: Hello, everyone. Students: Hello, ○○-sensei and ○○-sensei. HRT: How are you ? ALT: I'm (            ). How are you, (        )-san ? Student A: I'm (            ). How are you, (        )-san ? Student B: I'm (            ). How are you, (        )-san ? ※リレーで全員に尋ねていく。			○明るい雰囲気で。 ○今の気分をなるべくいろいろな表現を使えるようにする。
かるた ゲーム (5分) 【復習】	① ペアで一組の絵カードを机の上に広げる。 hungry happy sleepy fine tired sad ② ALTの発音を聞いて、交互に絵カードにタッチ。 ③ 交互に発音をして、聞いた方が絵カードにタッチ。			ペアで競うのではなく、助け合ってタッチするように促す。
歌 (5分) 【復習】	① Hello Song のCDにあわせて、みんなでジェスチャーをつけて歌う。			リズムを楽しめるようにする。
歌 (10分) 【新出】	① Ten Steps のCDをみんなで聞く。 ② ALTがTen Stepsを少しずつ歌って、ジェスチャーをつける。 児童はALTを見て、ジェスチャーをつける。 繰り返し、練習する。 ③ 児童は手をつないで並び、CDのTen Stepsにあわせて、ジェスチャーをつける。			HRTは 苦手そうな児童への支援を行う。  リズムを楽しめるようにする。
手たたき ゲーム (10分) 【新出】	① HRTが黒板に1～10のカードを貼る。 ALTが順に1～10を発音する。 児童もリピートして言う。 ② ALTが1～10のうち1つの数字のところは言わずに手をたたく。 児童もリピートして言う。 ※異なる数字で、何回か行う。 ③ ALTが1～10のうち2つの数字のところは言わずに手をたたく。 児童もリピートして言う。 ※異なる数字で、何回か行う。 ④ ALTが1～10のうち3つの数字のところは言わずに手をたたく。 児童もリピートして言う。			リズムを楽しめるようにする。  HRTは 苦手そうな児童への支援を行う。

	※異なる数字で、何回か行う。 ⑤ ボランティアの児童が前に出て、ALT役をする。 ※何人かの児童が交代して行う。 ⑥ ペアで、交互にALT役をする。			
聴き比べ (5分)	① Hi, friends! 1のp10のLet's Listenを開ける。 ② 集中して聴かせる。答え合わせをする。 ③ 1, 2, 3に限定して、注意深くもう一度聴かせて、気付いたことを交流させる。 ※1, 2, 3の音が似ている。			世界にはいろいろな言語があることを感じさせたい。
振り返り (5分)	○振り返りカードを配付し、今日の授業内容で気付いたこと、クラスメイトに対して気付いたこと、その他、感想など、書かせる。			

小学校英語活動に関する9月研究部会（報告）

1 1月の研究授業に向けて

【発表形態】

個人の発表ではなくグループ活動を効果的に取り入れる。

【指導案について】 指導案発表に関しての池田准教授による講評（別添参照）

- 目標と評価がつながっているということが大事。
- 1時間の中の「評価のポイントはどこか」評価項目は複数でなくてもよい。
- グループ内で役割分担をして、全員が発表できるように、また発表を聞くことができる工夫をする。

単元計画

Lesson 5	言語材料・語彙	第一時	第二時	第三時	第四時(本時)
「おすすめの国」を紹介しよう	【言語材料】 Where do you want to go? I want to go to～  【語彙】 国名 世界遺産 食べ物 動物 スポーツ など	【目標】  世界のいろいろな国の国名の言い方を知る。	【目標】  行きたい国について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	【目標】  おすすめの国について調べる。	【目標】  おすすめの国について発表したり、友達のおすすめの国の発表を聞く。
		【内容】 ①挨拶 ②Let's Chant ③国名を知る ④世界遺産や食べ物などを知る  ⑤Key Word Game  ⑥Let's play① ⑦振り返りカード ⑧挨拶	【内容】 ①挨拶 ②Let's Chant ③国名・色の復習 ④Let's Play② ⑤Where do you want to go?/I want to go to～の言い方を知る ⑥Q&A リレーゲーム ⑦振り返りカード ⑧挨拶	【内容】 ①挨拶 ②Let's Chant ③センテンスの復習 ④Let's play③  ⑤グループ分け  ⑥情報共有、ポスター作り ⑦振り返りカード ⑧挨拶	【内容】 ①挨拶 ②Let's Chant ③センテンスの復習 ④担任・ALTのおすすめの国の発表 ⑤各ブースに分かれて発表  ⑥クイズ ⑦振り返りカード ⑧挨拶
通知表観点 (評価基準)		主な判断材料			
		第一時	第二時	第三時	第四時
日本と外国の両方の言語・文化について知り、理解しようとする。		国旗や世界遺産にふれ、世界の国々に興味をもち、国名の言い方を知ろうとする。		「おすすめの国」の、文化や習慣、食べ物やスポーツなどについて知ろうとする。	友だちの「おすすめの国」の文化や習慣を知ろうとする。
相手が話すことをよく聞いて理解しようとしたり、自分の考えを相手に伝えるように話したりする。			相手に行きたい国を尋ねようとしたり、自分の行きたい国を伝えようとする。		自分の「おすすめの国」を相手に伝えようとする。また、友だちの「おすすめの国」を聞いて理解を深めようとする。
英語に興味を持ち、英語を聞いたり話したりする活動に積極的に取り組む。					自分の「おすすめの国」をポスターやジェスチャーを使って相手に伝えようとする。

池田准教授からの指摘

※「本時の展開」のファイルでは、この③④の活動が2つの活動なのかどうか。

※第四時の評価観点として「世界にはいろいろな人がいることに気づく」も追加可能ではないか。

※第四時は、コミュニケーション態度のことではなく、英語の音声・表現に慣れ親しんでいるか、を確認する観点なので以下に変更。

「行きたい国について聞いたり話したりする表現に、慣れ親しんでいる」

## 本時の目標

- ・担任やALT、友だちの「おすすめの家」の紹介を聞き、世界の国々の文化や習慣、食べ物やスポーツなどに興味をもつ。
- ・行きたい国の尋ね方や答え方を知る。
- ・自分の「おすすめの家」をわかりやすく相手に伝えようとする。

## 本時の展開

	学習活動	留意点	準備物
導入	挨拶 Let's Chant 行きたい国の尋ね方や答え方の復習(ALTと担任の「おすすめの家」について知る。)	・国旗や国名を振り返らせる。 ・行きたい国の尋ね方や答え方を復習させる。 ・担任やALTの「おすすめの家」の紹介を聞き、外国の文化や習慣などに興味をもたせる。	・電子黒板 ・担任、ALTの「おすすめの家」についての写真
展開	ブースに分かれて、自分の「おすすめの家」を紹介する。 友だちの「おすすめの家」について知る。	・国旗や国名を振り返らせる。 ・相手に伝わりやすいように、ポスターやジェスチャーを使い、発表させる。 ・友だちのブースで知ったことを、ワークシートにメモさせる。 ・グループの全員が発表できるよう声かけをする。	・ポスター ・ワークシート
まとめ	クイズ 振り返りカード 挨拶	・ワークシートを見ながらクイズをし、振り返らせる。	・振り返りカード

### 池田准教授からの指摘

- ※ 各活動の所要時間を入れる
- ※ 「留意点」の欄には指導内容が多いため、もう少し留意点事態についての記述を増やす。
- ※ ブースに立つグループが、交代制かどうかも記述して手順をより明確に。
- ※ 振り返る内容は、クイズに答えてグループワークの内容を確認するだけではなく、本時の授業で何に気づき、次に頑張ることを意識させると、次回以降の授業につながる。
- ※ 予習活動/まとめの欄では、「振り返りカード」を「振り返り」に。(活動についての記述であるため。)
- ※ 展開:英語の発音がわからない児童がいれば、支援できるよう巡視する。
- ※ まとめ:クイズは、グループで助け合うようにさせる。

## 小学校英語活動に関する10月研究部会（報告）

### 小学校英語部会 外国語活動指導案

日時	平成24年(2012年)11月30日(金)
場所	箕面市立箕面小学校 英語活動室
学年・組	6年2組 31名
指導者	新村 寿恵 デビアシ・クリスチャン・パトリック
単元名	Lesson5 「Let's go to Italy.」
単元目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の思いが伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞こうとしたりする。</li><li>・行きたい国について、尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。</li><li>・世界には様々な人たちが、様々な生活をしていることに気づく。</li></ul>

#### 指導において

昨年度から週1時間、担任とALTによる英語活動が始まり、今年で2年目になる。それまでは、年間4～6回の国際理解教育を行い、そこでは英語やいろいろな国の挨拶や文化などを学んできた。

学年が上がるにつれ、恥ずかしさから、声が小さくなったり、手が上がらなくなったりする様子が見られるが、本学級の児童は、英語活動においては元気がよく、大きな声で担任やALTが言うことをリピートすることができている。学習したばかりで、まだ自信がないときは、声が小さいときもあるが、歌やチャンツは休み時間などに友達同士で口ずさみ、次時の授業では大きな声で歌うことができるようになってきている。また、英語活動の時間以外にも、「これは英語でなんていうの?」と、聞いてくる児童も多く、日常的に英語に興味を持つ児童が多いと感じる。一方で、みんなの前で発表するという場面では、自信を持たずにうまく発表できない児童が多い。

本単元は、世界の国に興味を持ち、その国の国旗や世界遺産、食べ物、スポーツや服装などを知ることがねらいである。子どもたちの関心が高く、また普段から慣れ親しんでいるものや外来語、英単語も多いので、身近にとらえることのできる教材である。単元の流れとして、児童一人ひとりが興味をもった国について調べ、それを友達に発表するという順で進めていく。前時では、「おすすめの国」を選び、グループに分かれ、その国について知っている情報を共有しあった。そして、「総合的な学習の時間」を使い、インターネットで「おすすめの国」の情報集めを行った。各グループで、情報を収集・共有したあとは、発表する内容を話し合った。本

時では、各グループ（ブース）で「おすすめの国」を紹介する。また、グループの中で前半後半に分かれ、発表するだけでなく、他のブースを回り、友達の「おすすめの国」の発表を聞く活動も行う。

2年間で学んだセンテンスは極わずかではあるが、その中でも使えるセンテンスを見つけ、自分の知っている単語や調べた単語を組み合わせ、発表できる力をつけてきた。自分が伝えたい内容をまずは日本語で的確にまとめ、相手に伝わるようにそれにあった英語のセンテンスを考え出すことが求められる。児童にどんなセンテンスを習ったか、使えるかを尋ねると、下のセンテンスが出てきた。

伝えたいことが英語で伝われば、大きな達成感を得ることができ、これこそ言語活動の醍醐味ともいえる。グループでの学習をすることで、英語が苦手な児童も友達と協力しながら、また教え合うことで英語に対する理解度を深めさせたい。

人前で発表するのが苦手な児童は多いが、一人ひとりが意見を出し合い、協力し合いながら発表内容を考えたこと、また、「おすすめの国」を発表する姿も見ている。

#### 単元計画

Lesson 5	言語材料・語彙	第一時	第二時	第三時	第四時(本時)
「おすすめの国」を紹介しよう	<b>【言語材料】</b> Where do you want to go? I want to go to ~  <b>【語彙】</b> 国名 世界遺産 食べ物 動物 スポーツ など	<b>【目標】</b>  世界のいろいろな国の国名の言い方を知る。	<b>【目標】</b>  行きたい国について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	<b>【目標】</b>  おすすめの国について調べる。	<b>【目標】</b>  おすすめの国について発表したり、友達のおすすめの国の発表を聞く。
		<b>【内容】</b> ①挨拶 ②Let's Chant ③国名を知る ④世界遺産や食べ物などを知る  ⑤Key Word Game  ⑥Let's play① ⑦振り返り ⑧挨拶	<b>【内容】</b> ①挨拶 ②Let's Chant ③国名・色の復習 ④Let's Play② ⑤Where do you want to go?/I want to go to ~の言い方を知る ⑥Q&A リレーゲーム ⑦振り返り ⑧挨拶	<b>【内容】</b> ①挨拶 ②Let's Chant ③センテンスの復習 ④Let's play③  ⑤グループ分け  ⑥情報共有、ポスター作り ⑦振り返り ⑧挨拶	<b>【内容】</b> ①挨拶 ②Let's Chant  ③担任・ALTのおすすめの国の発表 ④各ブースに分かれて発表  ⑤クイズ ⑥振り返り ⑦挨拶
通知表観点(評価基準)	主な判断材料				
		第一時	第二時	第三時	第四時
日本と外国の両方の言語・文化について知り、理解しようとする。		国旗や世界遺産にふれ、世界の国々に興味をもち、国名の言い方を知ろうとする。		「おすすめの国」の、文化や習慣、食べ物やスポーツなどについて知ろうとする。	友だちの「おすすめの国」の文化や習慣を知り、世界にはいろいろな人がいることに気づこうとする。
相手が話すことをよく聞いて理解しようとしたり、自分の考えを相手に伝えるように話したりする。			相手に行きたい国を尋ねようとしたり、自分の行きたい国を伝えようとする。		自分の「おすすめの国」をポスターやジェスチャーを使って、相手に伝えようとする。また、友だちの「おすすめの国」を聞いて理解を深めようとする。
英語に興味を持ち、英語を聞いたり話したりする活動に積極的に取り組む。					行きたい国について聞いたり話したりする表現に慣れ親しんでいる。

## 本時の目標

- ・担任やALT、友だちの「おすすめの国」の紹介を聞き、世界の国々の文化や習慣、食べ物やスポーツなどに興味をもつ。
- ・行きたい国の尋ね方や答え方を知る。
- ・自分の「おすすめの国」をわかりやすく相手に伝えようとする。

## 本時の展開

	所要時間	学習活動	留意点	準備物
導入	10分	挨拶 Let's Chant 行きたい国の尋ね方や答え方の復習(ALTと担任の「おすすめの国」について知る。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国旗や国名を振り返らせる。</li> <li>・行きたい国の尋ね方や答え方を復習させる。</li> <li>・担任やALTの「おすすめの国」の紹介を聞き、外国の文化や習慣などに興味をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板</li> <li>・担任、ALTの「おすすめの国」についての写真</li> </ul>
展開	20分	<p>ブースに分かれて、自分の「おすすめの国」を紹介する。</p> <p>友だちの「おすすめの国」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6ブース【6カ国紹介】</li> <li>・前半発表者は後半ブースを回る。</li> <li>・後半発表者は前半ブースを回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国旗や国名を振り返らせる。</li> <li>・相手に伝わりやすいように、ポスターやジェスチャーを使い、発表させる。</li> <li>・英語の発音がわからない児童がいれば、支援する。</li> <li>・友だちのブースで知ったことを、ワークシートにメモさせる。</li> <li>・グループの全員が発表できるよう声かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
まとめ	15分	クイズ 振り返り 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ブースの発表に関するクイズを、ワークシートを活用しながら振り返り、クイズに答え、振り返りカードに記入させる。</li> <li>・本時でわかったことや、思ったこと、もっと知りたいことなどを、振り返りカードに記入させる。</li> <li>・何人かの児童のふり返りを、全体に広める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカード (クイズシート)</li> </ul>

## 指導案の完成に向けて

- 6グループに分ける
- 1グループ1カ国で、クラスで6カ国の発表とする。
- 1グループを半分に分けて全員が発表できるようにする。

## 小学校英語活動に関する11月研究部会（報告）

池田准教授レジメより

タイトル： 評価と活動についての Tips

項目

### 1 評価について

#### 1) どのような観点で評価すればいいのか？

評価は目的と合致→目標の三本柱

- ① 積極的なコミュニケーション態度の育成
- ② 言語や文化について体験的に理解する
- ③ 音声や基本的な表現に慣れ親しむ

具体的方策として(国立教育政策研究所 2011)

- 1
  - ・相手に伝わるように工夫して尋ねたり言ったりしている
  - ・笑顔で話している
  - ・相手の目を見て話したり聞いたりしている
  - ・相手の外国語(英語)がゆっくりでも、最後まで聞いている
  - ・相手の外国語(英語)がわからなければ、聞き返そうとしている
  - ・困っている友だちがいれば、手伝っている
  - ・誰とでも活動している
- 2
  - ・外国語(英語)と日本語とで、(建物の)表し方が違う/同じことに気付いている
  - ・音や文字が日本語と違う/同じことに気付いている
    - ・ことばの並びが、外国語(英語)と日本語で違う/同じことに気付いている
- 3
  - ・その単元のキーフレーズ/キーワードを、聞いたり言ったりしている
  - ・発音の仕方などについて、教師や友達に聞いている

研究授業についての意見交流

- 今回の授業案の発表形態で、子どもたちが、積極的に英語で発表し、また他のグループの聞き取りをしていたのでコミュニケーション活動においては成果があったといえる。
- ポスター制作やおすすめの国の調べ学習など、発表までの準備に時間がかかったが、発表時には自信を持って説明することができていた。



- グループでの発表を、前半と後半の2チーム作ることで、一人ひとりの役割がはっきりした。
- 6カ国の名所や食べ物、衣装などがよくわかるように説明できていた。
- 振り返りについてもカードに自分の感想を書いていた。

### 小学校英語活動に関する2月研究部会（報告）

来年度に向けて（意見交流から）

小学校での外国語活動が定着しつつあり、5、6年の学級担任の英語への抵抗感は少なくなってきた。ただ、当該学年にならないと外国語活動への取組に対して消極的であるという課題がある。ひとつの方法として、全学年の教職員が5年または6年のグループに入り、教材制作や授業案の検討をそのグループでおこなうことで小学校外国語活動が全体で共有できる。

来年度は、ALTも含めて小学校外国語活動の授業案を検討して作成できるようにしたい。また、中学校英語科教員とも連携してさらに研究を進めていきたい。

池田准教授より他県の取組の紹介

神奈川県・・・小中連携 兼務者が外国語活動 小中の交流を担う

広島県・・・他教科との連携 小5 社会で世界の時間 算数の計算を英語で。

ALTだけではなく、地域の人材や、日本人の支援員を活用しているところもある。

## V 研究のまとめ

「Hi, friends!」を活用するために、具体的な指導案を共同で作成し、スーパーバイザーの助言のもと研究を深めることができた。研究授業は担任とALTの2人だが、研究員全体で意見交流しながら指導案を作成することで、それぞれの学校の現状にも合わせることができるよう工夫も交流できた。仮説のように、共同で作成することで具体的で実践的な手法が研究でき、各校での外国語活動の授業力向上につながったと考える。

また小中連携については、小、中の研究授業を公開して、双方に活かせる取組になるように設定した。

今後は、子どもたちが意欲的に体験や活動ができる授業研究を深めることが必要であり、公開授業・研究協議会の充実、他市との連携などを行っていく方向性を共通確認した上で、市の教育研究会での研究として継続することとする。